

フライヤー等編 *Syllabary for the transfer of foreign names into Chinese* の 音譯漢字について

千葉謙悟

1. はじめに

本論では千葉 2021（以下「前稿」）の検討を踏まえ、英國人教育家フライヤー（John Fryer/傅蘭雅, 1839-1928）等編の音譯字表 *Syllabary for the transfer of foreign names into Chinese*（「外國名を中國語に轉記するための音節表」、以下「*Syllabary*」と略稱）に見える音譯漢字の特徴について分析する。

議論に入る前に、前稿の結論を要約すれば以下の通りである。*Syllabary* は19世紀後半から20世紀初頭にかけて來華外國人が主導した翻譯語統一事業を背景として編纂された音譯漢字表である。少なくともフライヤー、アメリカ人宣教師チャピン（Lyman Dwight Chapin/江戴德, 1836-94）およびシェフィールド（Devello Zelotes Sheffield/謝衛樓, 1841-1913）が編者である可能性がある。*Syllabary* は現在カリフォルニア大學バークレー校の東アジア圖書館に藏されており、A本とB本という二種類の草稿から成る。これらは1890年から1892年の間に現在の姿となったと推測される。また *Syllabary* の音譯漢字の基礎方言は北京音ではなく官話音である可能性が高い。

以上を基礎として、本論では *Syllabary* が提案する音譯用字が、英語原音と對照した場合にどのような特徴を有しているかについて分析する。同時代あるいは後代の音譯字とどのような異同を有するかについても初歩的な検討を加えたい。

2. 音譯漢字の分析

本節では *Syllabary* に見える對音について分析し、その音譯用字上の特徴を示

す。Syllabary に見える英語音節と音譯漢字のペアはA本で1100、B本で1094ある¹⁾。またSyllabaryでは英語音節の發音表示に當時のウェブスター式を採用しているが、本論では引用の際に左からウェブスター式發音表示、それに相當するIPA、音譯漢字の順に示す²⁾。音譯漢字の右にあるローマ字はWilliams 1874が載せる官話音のローマ字である³⁾。

2. 1. 英語子音の音譯漢字

2. 1. 1. 英語子音の音譯漢字一覽

英語子音に對應する音譯漢字は表1の通りである。ウェブスターが發音表示の際に基づいたところの19世紀英語の音價、特に母音についてはLindblad 1954を参照し、現代英語と際だった變化の見られないことを確認した。表1には子音單獨で音譯漢字が宛てられているもののみを挙げ、Syllabaryに設定のない子音についてはそのIPAを()でくくって示す⁴⁾。對照のため、現代での規範的な音譯漢字を新华社译名室編 2007: 3830の「英汉译音表」に基づき[]に入れて示す⁵⁾。次節以降において英語子音に對應する音譯漢字の特徴を挙げていく。

表1 英語子音(單獨)に對應する音譯漢字

	兩唇音	唇齒音	兩唇軟 口蓋音	齒音	齒莖音	後部 齒莖音	硬口 蓋音	軟口 蓋音	聲門音
破裂音	p 伯 [普]				t 德 [特]			k 革 [克]	
	b 伯 [布]				d 德 [德]			g 革 [格]	
摩擦音					ts 資 [茨]	tʃ 支 [奇]			
					dz 資 [茲]	dʒ 支 [奇]			
鼻音	m 木 [姆]				n 諾 [恩]		(ŋ)		
摩擦音		f 弗 [夫/弗]		(θ)	s 斯 [斯/絲]	ʃ 施 [什]			h 赫 [赫]
		v 弗 [夫/弗]		(ð)	z 斯 [茲] [斯/絲]	ʒ 日 [日]			
接近音			(w) [夫/弗]			ɹ 耳 [尔]	(j) [伊]		
側面音					l 勒 [尔]				

2. 1. 2. 破裂音・破擦音

Syllabaryの最大の特徴は、英語子音の無聲阻害音と有聲阻害音を區別せず同じ音譯漢字を用いて表す点にある。つまり破裂音では [p][b] に對して「伯」poh^入、[t][d] に對して「德」teh^入、[k][g] に對して「革」koh^入、破擦音では [ts][dz] に對して「資」tsz^{陰平}、[tʃ][dʒ] に對して「支」chi^{陰平}、摩擦音では [f][v] に對して「弗」fuh^入、[s][z] に對して「斯」sz^{陰平}が區別なく宛てられているのである。これらの多くは現代の規範であれば別の音譯漢字を宛てるところであり、例えば [p][b] に對してはそれぞれ「普」(拼音pǔ)「布」(拼音bù) が用いられる。

こうした状況は子音單獨の場合のみならず母音や半母音が後續する音節の音譯漢字についてもあてはまる。例えば「波」po^{陰平}はbō [bou] およびpō [pou] の音譯漢字に宛てられる。以下いくつか例を挙げると、「兌」tui^去がtwě [twe] およびdwě [dwe]、「朱」chu^{陰平}がchōo [tʃu:] およびjoo [dʒu:]、「丰」(sic) fung^{陰平}がfūng [fʌŋ] およびvūng [vʌŋ]、「撒」sah^入がsä [sa:] およびzä [za:]、「晒」shai^去がshī [ʃai] およびzhī [ʒai] に用いられている。

Syllabaryの音譯漢字の中には有氣音を持つ字が使われる例はない⁷⁾。中國語の有氣音字が少なくとも英語の有聲音音節を表す字としては適さないという判断がSyllabaryの編者の間で行われた可能性が高いように思われる⁸⁾。彼らは英語阻害音において有聲・無聲の差異が再現できないのならば音譯漢字の區別を設けなくてよいという判断を下したのであろう。

Syllabaryが英語子音の無聲阻害音と有聲阻害音を區別しないという特徴は、管見の限り近代における他の音譯字表には見られないものである。例えば陳獨秀 1916: 283-284ではBa「巴」に對してPa「帕」、Den「顛」に對してTen「天」のように異なる字を用いる⁹⁾。「巴」「帕」および「顛」「天」という用字上の第一の差異が帶氣性の有無にあり、これを利用して有聲音と無聲音を表わそうとしていることに異論はなからう。

以上の状況に對する唯一の例外が後部齒莖摩擦音である。齒莖摩擦音 [s][z] が共通して「斯」を用い、また後部齒莖破擦音 [tʃ][dʒ] がともに「支」を用いる中、後部齒莖摩擦音だけは無聲音sh [ʃ] に對して「施」shi^{陰平}、有聲音zh [ʒ] に對して「日」jeh^入という區別を與える。Zh [ʒ] に用いられる音譯漢字

が zhīm [ʒim] 「仁」 jǎn^{陽平}、zhoong [ʒu:ŋ] 「絨」 jung^{陽平} のように主に中古の日母字であることを考えると、Syllabary の依據した官話音では、(止攝三等日母字などを除けば) 中古の日母字が齒莖摩擦音ではなくそり舌音で反映しており、しかも接近音というよりは摩擦音であった可能性があらう¹⁰⁾。その場合、英語の [ʃ] [ʒ] に對してそれぞれ [ʃ] [ʒ] という對應がより成立しやすいといえる。[ʃ] [ʒ] に母音が後續する場合も同様であって、Syllabary では例えば shim [ʃim] 「申」 shǎn^{陰平} に對して zhīm [ʒim] 「仁」 jǎn^{陽平}、show [ʃau] 「稍」 shao^{陰平} に對して zhow [ʒau] 「遼」 jao^上 のように、異なる音譯漢字を用いている。

2. 1. 3. 齒音摩擦音

第二の特徴は、英語で頻出する齒音摩擦音 [θ] [ð] が Syllabary には登録されていない点である。實は Syllabary のうち B 本には齒音摩擦音を表す th に始まる項目がなく、これをどのように音譯漢字で表すつもりだったのか、B 本からだけでは不明である。一方、A 本には “For Th see T (Th については T を参照)” という指示があるので、有聲無聲を問わず無聲齒音破裂音で代用するつもりであったことが知られる。Syllabary では英語の有聲音と無聲音を基本的には區別しないこと、上述のとおりである。

Syllabary とおおむね同時代と思われる英語教本、例えば Yates 1871 『中西譯語妙法』でも齒音摩擦音は有聲・無聲を問わず齒音破裂音で代用している。Yates 1871 の音譯漢字の基礎方言は吳語とおぼしいが、three 「脱里」 t'eh-li (1 頁)；thousand 「韜山五」 t'au-san-'ng (4 頁)；they 「抬」 té (34 頁)；the 「提」 dí (38 頁。いずれも下線は千葉による) など、Syllabary と同じく齒音破裂音で代用していることが分かる¹¹⁾。

一方、現代の規範では英語の齒音摩擦音は中國語の無聲齒莖摩擦音に合わせてあり、新华社译名室編 2007 : 3830 では [s] [z] に對應するものと同じ音譯漢字、すなわち「斯/丝」(拼音 sī) が用いられる。英語の齒音摩擦音を中國語の無聲齒莖摩擦音で處理する方式は何崧齡 1924 の「西文譯音總表」がすでに採用しており、他のいくつかの譯音表を見る限り齒音破裂音から無聲齒莖摩擦音へ變化はおおむね 20 世紀初頭に起こったように見える。ただ詳細な検討は本稿の範囲を超えるためこれ以上は觸れない。

2. 1. 4. 音節末子音

第三の特徴は、Syllabaryの音譯漢字において元となる英語音節が「(子音+) 母音 + m/n/ng」という形しか設定されていない点である。例えばem [em]「恩」ngǎn^{陰平}、hǎn [hɑ:n]「罕」han^上、lǒng [lɔŋ]「楞」lǎng^{陰平}のように。さらに、英語でmに終わる音節はn韻尾を持つ音譯漢字で代用されている。例えばdoom [du:m]「盾」tun^上、nǔm [nɒm]「嫩」nūn^去、wǐm [wim]「温」wǎn^{陰平}など。ここに挙げた音譯漢字は、主要な漢語方言において子音韻尾mを持つことはない。中古音あるいはそのm韻尾を残す一部の方言に合わせ、例えば英語音節emを「恩」ではなく「鹽」などで代表させることも可能ではあったろうが、Syllabaryにそうした状況は見られない¹²⁾。

Syllabaryの音譯漢字のうち中古音で兩唇音の子音韻尾を持つ侵攝・咸攝の舒聲字は「南」nan^{陽平}「林」lin^{陽平}「暫」tsan^去「冉」jan^上「凡」fan^{陽平}の5字に限られる。これらはいずれも英語のnに終わる音節とmに終わる音節の雙方に用いられる。例えば「南」nan^{陽平}はnām [nɑ:m]、nǎm [næm]、nān [nɑ:n]、nǎn [næn]の音譯漢字である。これに對して現代語でn韻尾を持つ音譯漢字は上記5種を除いて59種あり、その多くが「盾」などと同様に英語でmに終わる音節の對音に用いられている。よって中古音や一部の方言に見られるm韻尾を音譯漢字の選擇に際して利用した形跡は認められない。

その他の音節末子音、例えば-t, -g, dʒなどは先行する母音とセットになった形では示されていない。周知の通り英語の音節末子音は中國語に比べ豊富であり、かつ音節末での複子音も許容するが、それらについては英語の單子音に對應する音譯漢字を用いるつもりであったと推測される。

2. 1. 5. LとR

第四の特徴は英語の子音lとrの區別が音譯漢字にはないことである。子音單獨の場合であれば表1のようにlに「勒」leh^入、rに「耳」rh^上を用いて區別するようになっているが、同一の母音が後續すれば音譯用字上の區別を失う。例えば「雷」léi^{陽平}はlā [lei]とrā [rei]の雙方、「利」lì^去はlì [li]とrì [ri]の雙方、「魯」lǔ^上はloo [lu:]およびroo [ru:]の音譯漢字に用いられている。つまり英語の子音lもrも共に中古の來母字で宛てられていることになる（R單獨の場合を除く）。

2.2. 英語母音の音譯漢字

2.2.1. 英語母音の音譯漢字一覽

Porter 1903: lvii に記載の母音圖に基づき、以下に19世紀當時の英語母音とそれに對應する Syllabary の音譯漢字を擧げる。Syllabary に記載がない場合は英語母音に () を付した。對照のため、現代での規範的な音譯漢字を新华社译名室編 1993/2007: 3830 の「英汉译音表」に基づき [] に入れて示す。

【單母音】

i: 伊 [伊]	ɪ 伊 [伊]	(ʊ)	u: 烏 [烏]
	ə 耳 [厄]		
e 哀 [埃]		ɔ 俄	o: 奧 [奧]
(ɛ)			
æ 阿 [阿]		ʌ 額 [阿]	ɑ: 阿

【二重母音】

eɪ 哀 [埃]	ɪə 耳	
aɪ 哀 [艾]	ʊə 耳	oʊ 俄 [奧]
ɔɪ 俄伊/俄	(ɛə)	aʊ 奧 [奧]

また上に掲げた英語の母音とは別に、おそらくはドイツ語とフランス語を念頭に Syllabary では ü [y] 「餘」、ö [ø] 「額」が設定されている¹³⁾。

2.2.2. 單獨の英語母音と音譯漢字

前節の一覽を見ると、英語で中舌的要素を含む母音であれば單母音・二重母音を問わず「耳」字が規則的に宛てられていることに氣づく。つまり「耳」は [ə] [ɪə] [ʊə] 3種類の音譯漢字なのである。Syllabary が依據した官話の母音體系において、中舌的要素を含む單母音は R 化母音 [ə] のみであったらうから、それを持つ「耳」は英語の中舌的要素を含んだ母音によく對應するといつてよい。

興味深いことに現代の「英汉译音表」でも中舌母音を含む二重母音や三重母

音は新华社译名室編 2007:3830にて「r或re在词尾, 音标为 [ə] 时, 均按“尔”译寫。(Rまたはreが語末にあつてIPAが [ə] ならばみな「爾」で記す)」と規定されている。「耳」rh^上と「爾」rh^上は官話では同音だから、Syllabaryの處理法は(直接的な影響はなかったであろうが)現代に通じるものであるといえよう。

次いで英語の二重母音 [ɔɪ] にのみ音譯漢字二字が用意されている點が注意を引く。すなわち oi [ɔɪ]「俄伊」ngo^{陽平}i^{陰平}である。子音が先行したときも同様であり、boi [bɔɪ]「波伊」po^{陰平}i^{陰平}、choi [tʃɔɪ]「卓伊」cho^入i^{陰平}、doi [dɔɪ]「多伊」to^{陰平}i^{陰平}、foi [fɔɪ]「佛伊」fuh^入i^{陰平}、goi [gɔɪ]「哥伊」ko^{陰平}i^{陰平}、hoi [hɔɪ]「賀伊」ho^去i^{陰平}などが設定されている。また [ɔɪ] のみ音譯用字が二種類用意されており、例えば oi [ɔɪ] には「俄伊」の他に「俄」ngo^{陽平}、boi [bɔɪ] には「波伊」の他に「波」po^{陰平}という選擇肢もある。要するに「伊」i^{陰平}の有無は任意である。

第二要素が前舌的な英語の二重母音において、[eɪ][aɪ]については近似する音譯漢字「哀」ngai^{陰平}を見つけられたが、[ɔɪ] に対しては適當な一字を見つけられなかったということであろう。そして Syllabary の編者たちにとって、英語の二重母音 [ɔɪ] は [eɪ][aɪ] を表す音譯漢字「哀」では代用できないと認識されたように思われる。しかし、おそらくはこれら 3 種の二重母音を一字の音譯漢字でそろえるため、[ɔɪ] には第二要素を切り捨てた「俄」も用意されている。[ɔɪ] に子音が先行した場合でも同様である。例えば boi [bɔɪ]「波伊」または「波」。

2. 2. 3. 英語母音と音譯漢字の種類

Syllabary の音譯漢字における第二の特徴は、多くの英語母音の區別を斷念し同じ音譯漢字を宛てる點にある。前稿にも挙げたが Syllabary 冒頭の「中國語では細かい區別が不可能なので重要な母音だけを挙げている」¹⁴⁾ という記述はこの現象を指している。上の母音一覽から、重要でないと判断されたのはいわゆる tense と lax の違いとされる [i] と [ɪ] および [u] と [ʊ] の別や、瓣別的ではない [e] と [ɛ] の別であろう。

以上から、Syllabary においては一つの音譯漢字が複数の英語音節に對應しうることとなる。同時に、このような處理は音譯漢字の種類を制限する効果もも

たらしている。そもそも對音の忠實性を優先すれば、英語一音節に對し音譯漢字一種類という形で忠實に英語音聲を轉寫していくことが理想であるから、理論上音譯漢字の種類は英語の音節の数まで増える。しかし音譯語を生成するという實用性の觀點からいえば、音譯漢字の種類は一定の枠内に収まっていた方が望ましい。この兩者のバランスに絶對的な基準はもちろなく、音譯字表の編者の方針によるところ大である。

Syllabaryでの状況を見ると、先述の通り Syllabaryに見えるペアはA本では1100、B本では1094あるが、音譯漢字はA本B本ともに273種にすぎない。この273種の中には、「追」chui^{陰平}のようにchwā [tʃwei] という一つの英語音節にしか對應しない字もあれば、後述の「典」tien^上のように20種を越える音節の對音に用いられる字もある。

ここで Syllabary の音譯漢字の使用頻度上位10種について統計を取ると①「典」tien^上「分」fān^{陰平/去}「眞」chān^{陰平}がそれぞれ21音節、④「笨」pān^去が19音節、⑤「盾」tun^上「倫」lun^{陽平}「旦」tan^去がそれぞれ18音節、⑧「根」kǎn^{陰平}「綏」sui^{陰平}がそれぞれ16音節、⑩「連」lien^{陽平}が14音節となる。これら10字は合計して182の英語音節の音譯漢字であるから、273字中の上位10字（音譯字中の約3.7%）が Syllabary 所載の英語音節の15%の音譯字に用いられている計算となる。ここで一例として「典」が代表する英語音節を示すと以下の通り。

表2 「典」の代表する英語音節

發音記號	IPA	發音記號	IPA	發音記號	IPA	發音記號	IPA
dām	deim	dī-èn	dī-en	tān	tein	tīm	tim
dān	dein	dīm	dīm	tēm	tem	tīn	tain
dēm	dem	dīn	dain	tēn	tīn	tīn	tin
dēn	dīn	dīn	dīn	tēn	ten		
dēn	den	dī-ōn	dī-on	tī-ān	tī-æn		
dī-ān	dī-æn ¹⁵⁾	tām	teim	tī-èn	tī-en		

表2から看取できるとおり、「典」字が代表する英語音節がかくも多くなつた要因は、明らかに英語の子音ではなく母音に歸せられる。すなわち「典」字においては英語の子音上の差異は頭子音の齒音破裂音の有聲性の有無および音

節末子音 n と m の差異にしかない。一方、英語母音について見てみれば「典」字は単母音や複母音を合わせれば [ai][ei][e][i:][i][ie][iæ][io] という 8 種類の母音を代表しているのである。

Syllabary の序言の「重要な母音だけを擧げている」という記述を裏付けるもう一つの状況は、ウェブスターの辞書では発音記號が設定されていながら Syllabary に最初から擧げられていない母音も存在するという事実である。例えば 3. 2. 1 節の一覽に擧げたように、â [ɛ] や oo [ʊ] などは Syllabary には独自の音譯漢字が存在しない。おそらく、これらは â [ɛ] であれば Syllabary の ě [e] 「哀」ngai^{陰平} か ä [æ] 「阿」o^{陰平}、oo [ʊ] は oo [u:] 「烏」wu^{陰平} で代用するつもりであったのだろう。

3. 同時代及び後世への影響

Syllabary は官話によって音譯語を機械的に生成し音譯語を統一するという発想に基づいた音譯字表として先驅的な試みである。以後、特に中華教育會に關連する宣教師が創造した音譯語は Syllabary を修正したものである可能性が高い。

例えば前稿で指摘したように、*List of Geographical Names* は Syllabary に基づいたものであるが、土地面積の單位エーカーを acre 「阿嘎來」o^{陰平}ka^入lai^{陽平}のごとく表記した例が見られる¹⁶⁾。Acre [ˈeikə] は Syllabary に基づけば [ei] に「哀」ngai^{陰平}、[kə] に「革」koh^入を宛てるので「哀革」ngai^{陰平}koh^入という語形が期待される¹⁷⁾。しかし實際は、acre という綴りに對應させて「阿嘎來」という語形を與えたように見える。つまり acre を a-c-re と分解した上で a を [ɑ:] とみなして「阿」o^{陰平}、c を [kɑ:] として「嘎」ka^入、re を [ra:] lai^{陽平} とみなして「來」と宛てたとおぼしい。綴字に従った表記が *List of Geographical Names* に見えることは興味深いが、それでも (c を [kɑ:]、re を [ra:] とみなすのはやや無理があるもの) 「阿嘎來」という語形は Syllabary の音譯用字を守ったものであることをより重視すべきであろう。

また Committee of the Educational Association of China 1904 は譯語對照表として事實上 Fryer 1888 を継ぎ來華外國人が主導した譯語統一の試みの成果であるが、この中の固有名詞對照表にみえる音譯語もまた Syllabary に従っているよう

には見えない時がある。例えばイギリス人天文学者ハーシェル (Herschell) に「侯失勒」heu^{陽平} shih^入 leh^入 (497頁)、アメリカ人法学者ウィートン (Wheaton) に「惠頓」hwui^去 tun^去 (502頁) などといった表記がある。ハーシェルはワイリー (Alexander Wylie/偉烈亞力、1815-87) と李善蘭による天文学書『談天』(1859序)の原著者として知られ、ウィートンは国際法の分野でマーティン (William Alexander Parsons Martin/丁韋良、1827-1916) の『萬國公法』(1864)の原著者として知られる。それぞれ『談天』において「侯失勒」、『萬國公法』において「惠頓」と記されている。

Syllabaryに基づけばハーシェルは ['hə:ʃəl] から「赫舍勒」hoh^入 shé^去 leh^入、ウィートンは ['wi:tən] から「偉盾」wéi^上 tun^上のような表記が期待される。しかし『談天』における「侯失勒」、『萬國公法』における「惠頓」は20世紀初頭までに中国で定着した表記と比べてよく、Syllabaryに従わない理由が説明できるものである。

4. 結語

ここまでSyllabaryの音譯漢字の特徴を検討してきた。子音面では英語の阻害音において有聲音と無聲音を原則として區別しないこと、英語の齒音摩擦音は齒音破裂音で代用していること、英語の音節末子音は限定的にしか音節表に組み込まれておらず、それ以外の子音については子音單獨の音譯漢字で對應すること、lとrは單獨では區別するものの母音が後續すると區別を失うことを指摘した。また母音については、中舌的要素を含む母音に對しては同じく中舌的要素を含む字が音譯漢字となること、二重母音 [ɔɪ] にのみ二字の音譯漢字も用意されていること、英語の母音の詳細な區別はなされておらず、その結果音譯漢字の種類がある程度限定されていることが明らかになった。

フライヤーについては従来江南製造局での翻譯活動や格致書室を中心とした著述活動が注目されてきた。それに加えて最近では時新小説の提唱に代表される中國近代文學の先驅、また歐米の盲人教育を紹介した障害者教育の先驅、さらには通俗科學にとどまらない學科の紹介者としての役割も注目される場所である¹⁸⁾。彼が言語・文學・教育などの面において一定の先見性を備えていたことを見逃してはならない。このうち言語面における先見性については、フラ

イヤーが北京語の教科書の草稿を早い段階において執筆した點に注目して千叶2021において論じた。前稿および本稿が取り上げた音譯語標準化の試みも、こうしたフライヤーの中國語に對する先見性の發露の一つと捉えるべきであろう。本稿が検討した音譯語標準化案が現代に直接受け継がれることはなかったものの、その先驅性は正當に評價されるべきである。

1870年代から90年代にかけては來華宣教師を中心とした譯語統一運動が隆盛を迎えた時期である。中國語における近代語彙の整備という觀點から沈國威2007が擧げる各種術語辭典にも Syllabary と關係の深い Fryer 1888 が収録されている。Syllabary の目指した音譯語の標準化は、こうした近代語彙創造の一環と言えよう。注目すべきは來華宣教師による活發な活動である。前稿にも擧げたが、例えば Doolittle 1872 には本稿で取り上げた Syllabary と同じ趣旨の音譯字表も掲げられている¹⁹⁾。これは來華宣教師 Ewer によって編纂された、粵語に基づく表であった。音譯語の標準化に向けて音譯字表が複数提案されていたことは興味深い事實である。19世紀末から20世紀初頭にかけて行われた各種試みとその経過についてはさらなる分析と検討が求められるであろう。

付記：本稿は日本學術振興會より交付された科學研究費（基盤C：19K0064）による研究成果の一部である

注)

- 1) 取り消し線が引かれているもの、追加されているものを含む。なお本論では特に注記しない限り、A本とB本に掲載されている英語音節と音譯漢字のペアに異同はない。
- 2) 發音表示とそれが示す音聲は Porter 1893：lv-xxi に基づく。
- 3) Williams 1874 では聲調を圈點で示す。本稿ではローマ字の右上に平上去入で示す。
- 4) このうちA本には「For ● see ○」（●については○を参照）という形の指示がいくつか見られる。これによれば、C [k] および Ch [k] はKを、ç [s] はSを、çh [ʃ] はShを、G（上に1つ點を打つ）[dʒ] はJを、Ph [f] はFを、Qu [kw] はKWを、Th [θ] [ð] はTを、それぞれ参照することになっている。
- 5) 「英汉译音表」には gw, kw, hw の音譯漢字も設定されているがここでは略す。
- 6) 新华社译名室編 2007：3830によれば「丝」は女性名に用いる。
- 7) 普通話で有氣音を持ちうる音譯漢字には唯一「調」t'iao^{陽平}/ tiao^去がある。しかし「伯」「朱」のような他の音譯漢字の使われ方から類推するに「調」は無氣音で用い

- ることが想定されていたとみてよからう。なお「調」は di-ow [di-au] と ti-ow [ti-au] の音譯漢字である。また IPA に基づけば音節境界はピリオドで示すべきであるが、本稿では Syllabary の表記に合わせてハイフンで表示する。以下同。
- 8) 英語の無聲破裂音・破裂音は一般に語頭において帯氣性を有する(複子音の場合は除く)が、それは音譯漢字には反映されていない。現代の音譯字表では、英語の有聲阻害音に對して一般に普通話の無氣音字が宛てられ、無聲阻害音に對しては有氣音字が宛てられる。例えば新华社译名室編 2007 : 3830 では [be][bei] には「貝」(拼音 bèi)、[pe][pei] には「佩」(拼音 pèi) を用いる。
 - 9) 陳獨秀 1916 : 285 では「B 聲合華音幫母, P 聲合華音滂母, D 聲合華音端母, T 聲合華音透母, 固皆畫然分別也。(中略) 今後譯者, B 之與 P, D 之與 T, 不可無別也 (B は中國語の幫母に合い, P は中國語の滂母に合い, D は中國語の端母に合い, T は中國語の透母に合うというように、みなはっきりと區別される。(中略) 今後翻譯する人は B と P, D と T は區別しなければならない)」と述べる。陳獨秀がローマ字で示した子音 (B と P など) のペアは今のピンインのような有氣音と無氣音ではなく、有聲音と無聲音を意圖している。
 - 10) Williams 1874 を含めた 19 世紀の英華辭典類では中古の日母字を多く j で標音するという事実も、當該の字が當時はそり舌接近音というよりはそり舌摩擦音であったことを示唆するだろう。
 - 11) Yates 1871 の音譯漢字の右に添えたローマ字は Edkins 1869 による。ただし「韜」(效一開平豪透) の t'au は記載がないため、音韻對應からの類推によって記した。また「抬」(蟹開一平哈定) は音韻對應からすれば呉語では有聲音聲母が期待されるところであるが、Edkins 1869 の通り記した。
 - 12) 「恩」は中古音で臻攝に屬し現代諸方言でも m に終わることはない。一方「鹽」は中古音で咸攝に屬し、現代諸方言では粵語などで m に終わる。例えば北京大學編 2003 : 260 では廣州で [jim²¹]。
 - 13) 子音と結合する場合 ü [y] であれば官話で類似した音節がある場合は lü [ly] 「呂」lü⁴ のようにそれを用い、そうでない場合は dü [dy] 「第」ti⁴ のように韻母に [i] を持つ音節を選んでいいる。同様に、ö [ø] では rö [rø] 「勒」leh⁴ や zö [zø] 「色」seh⁴ のごとく圓唇性は表現しない。
 - 14) Chapin, Lyman Dwight, and John Fryer. (n.d.), p. 1. 譯文は千葉 2021 : 27-28。
 - 15) A 本 B 本ともに追加されているペアである。
 - 16) Chapin n.d.: 1. 「嘎」は Williams 1874 に記載がないため ka⁴ は音譯用字から類推した。*List of Geographical Names* については前稿參照。またその序言では所收の音譯語が Syllabary に基づくと述べているが、この點についてはすでに Tola 2021 : 150 に指摘がある。
 - 17) [kə] に相當する音節が Syllabary にはないため、ここでは近似する kǔ [kʌ] 「革」を用いた。

- 18) 時新小説についてはバークレーの東アジア図書館で稿本が発見され周欣平主編 2011 に収録された。その研究には姚达兑 2014 などがある。また盲人教育のために『教育瞽人理法論』（1911）を出版したり、音楽教育において19世紀半ばのイギリスで開発された視唱指導法であるトニック・ソルフア（Tonic sol-fa）を中国で実践したりといった業績が明らかになりつつある。前者については赵中亚 2015 が、後者については宮宏宇 2012 が比較的詳細に紹介している。
- 19) Doolittle 1872 : Vol. II, 408-412.

・参考文献

千葉謙悟 2021. 「カリフォルニア大学バークレー校フライヤー文庫藏 *Syllabary for the transfer of foreign names into Chinese* について」『中國文學研究』47 : 22-35頁。

北京大学中国语言文学系语言学教研室編 2003. 《汉语方音字汇（第二版重排本）》。北京：语文出版社。

宮宏宇 2012. 《基督教传教士与西国乐法东渐——从傅兰雅的教学实践看“主音嗖乏”教学法在晚清的传播》《南京艺术学院学报·音乐与表演》3 : 1-8頁。

千叶谦悟 2021. 《加州大学柏克莱分校傅兰雅文库藏《意拾喻言》及其语言特征》，沈国威、奥村佳代子編《东西言语接触と文化交渉——内田庆市教授古稀纪念论文集》吹田：关西大学出版社，329-348頁。

沈国威 2007. 《中国近代的科技术语辞典（1858-1949）》《或问》13 : 137-156頁。

姚达兑 2014. 《主体间性和主权想象——作为中国现代小说源头之一的傅兰雅“时新小说”征文》《清华大学学报（哲学社会科学版）》2 : 26-36.

赵中亚 2015. 《民国以后的傅兰雅》《或问》28 : 187-191頁。

Lindblad, Karl-Erik 1954. *Noah Webster's Pronunciation and Modern New England Speech*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.

Tola, Gabriel 2021. *John Fryer and The Translator's Vade Mecum: New Perspectives on the History of Modern Chinese Scientific and Technical Lexicon*. Leiden: Brill.

・一次資料

陳獨秀 1916. 《西文譯音私議》《新青年》2(4) : 283-87.

(英) 傅兰雅 1911. 《教育瞽人理法論》。上海：時中書局。

何崧齡 1924. 《標準漢譯 外國人名地名表》。上海：商務印書館。

新华社译名室編 1993/2007. 《世界人名翻译大辞典》。北京：中國对外翻译出版公司。

周欣平主編 2011. 《清末时新小说集》。上海：上海古籍出版社。

Chapin, Lyman Dwight, and John Fryer. (n.d.) *Syllabary for the transfer of foreign names into*

Chinese. (ms.)

Chapin, Lyman Dwight (n.d.) *List of Geographical Names*. (ms.)

Committee of the Educational Association of China 1904. *Technical Terms English and Chinese*.
Shanghai: Presbyterian Mission Press.

Doolittle, Justus 1872. 英華萃林韻府 *Vocabulary and Hand-Book of the Chinese Language*.
Foochow: Rozario, Marcal and Company.

Edkins, Joseph 1869. *A Vocabulary of the Shanghai Dialect*. Shanghai: The Presbyterian Mission
Press.

Fryer, John 1888. *The Translator's Vade-mecum: A Collection of Vocabularies of Chinese Terms Used
in the Translation of Scientific Books at the Kiangnan Imperial Government Arsenal, Shanghai,
China*. Shanghai: The Presbyterian Mission Press, pp. 531-551.

Porter, Noah 1893. *Webster's International Dictionary of the English Language*. Springfield, Mass.: G.
and C. Merriam Co.

Williams, Samuel Wells 1874. 漢英韻府 *A Syllabic Dictionary of the Chinese Language*. Shanghai:
American Presbyterian Mission Press.

Yates, Matthew Tyson 1871. 中西譯語妙法 *First Lessons in Chinese*. Shanghai: American
Presbyterian Mission Press.

* *

作 者：千葉 謙悟

Author：CHIBA Kengo

標 題：傅兰雅等編 *Syllabary for the transfer of foreign names into Chinese* の音译汉
字初探

Title：On the Chinese Characters Corresponding to English Syllables in the *Syllabary
for the transfer of foreign names into Chinese*

摘 要：英國启蒙家傅兰雅 (John Fryer) 藏有的手稿 *Syllabary for the transfer of
foreign names into Chinese* 是一份英语音节和音译汉字的对照表，作为音译词规
范化的早期尝试之一不能忽视。本文首次对加以语言学分析，指出该书音译汉
字的一些特征：其在英语辅音方面的特征为：(1) 阻音的清浊不分；(2) 齿擦
音與齿龈塞音不分；(3) 主元音和音节尾的组合种类少；(4) L和R的音译汉
字单拼时分，與元音拼时不分。英语元音方面是：(1) 央元音以及带其的复元

[38] 中國文學研究 第四十八期

音都以“耳”字來表示；(2) 一字可代表多种英语音节；(3) 只为标雙重元音 [oi] 设有两字。

關鍵詞：Syllabary for the transfer of foreign names into Chinese 傅兰雅 音译汉字 英汉对音 音译词规范化